

2022年(令和4年)11月25日(金曜日)



視覚を追跡する機能を設定している様子

日立ソリューションズと同社子会社の日立ソリューションズ・クリエイト、医療機器の製造と販売を手掛ける日本メドトロニック（東京都港区）は、現実世界の上に3次元の映像などを重ねて表示する複合現実（MR）技術を活用し、手術室で働く看護師のスキル習得を支援するトレーニングツ

MRで手術室看護師のトレーニング支援

日立ソリューションズ^{など}3社がツール開発

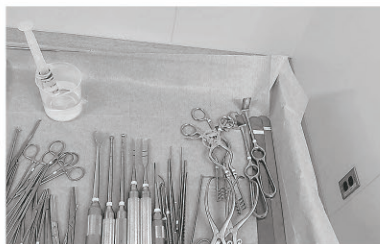
ルを開発したと発表した。熟練看護師の目線の動きを可視化し、教材として生かす。

今回開発したトレーニングツールは「HoloMe（呼称・ホロミー）」で、メドトロニックが22日に提供を始めた。「器械出し」と呼ぶ業務の習得を手助けする。

器械出し業務とは、手術がスムーズに進行するように器材などの準備や適切な手渡しと受け取りなどを行い、術者を介助する業務。マイクロソフトのMRデバイス「HoloLens（ホロレンズ）」2を

利用し、熟練看護師の目線の動きを現実の空間上に表示して録画。デバイスを装着した非熟練看護師は、その録画データを視聴して学習する。学ぶのは、医療機器の複雑な組み立て方法や操作。手術の手順に沿った器械出しの方法も、熟練看護師の映像と比較しながら効率的に習得できる。学習中の目線を録画し、継続的なスキル改善につなげることも可能だ。

手術に用いる医療機器にはさまざまな構成部品があり、使用方法も特殊だ。手術室で器械出し業務を担う看護師は医療機器の使用方法を熟知し、器械を差し出すタイミングも的確に行う必要がある。熟練者はこうした業務を非熟練者にきめ細かく指導する必要があるが、業務負荷の低減が求められていた。新型コロナウイルスの感染拡大を避けた上で、医療現場で十分な臨床実習の機会を確保するという課題もあった。



熟練看護師の目線が緑のマークとして投影されている様子

そこで3社は協業し、今回のツールを開発した。最新のデジタル技術を生かした医療教育ツールを提供することで、医療機器の安全な活用と看護師の生産性向上を支援したい考えだ。

※本記事は、発行元の許可を得て掲載しております。